

友と関わり合いながら伝える力を育てるための指導のあり方 ～新聞を活用して～

指定校2年次 伊那市立西春近南小学校 木下 聖子 小松 共一

1 本校のN I Eの現状

(1) N I E 指定校1年次 ～新聞に興味をもち親しむために～

1年次の昨年度は、まず新聞を身近にする環境を整えてきた。児童玄関前の廊下に「新聞コーナー」を設け、低学年も新聞に親しめるように「子ども新聞」2紙を置いた。また、新聞を活用した学習カードや作品は、全学年が廊下に掲示し、学習の様子を全校で見合い、互いに学び合えるようにした。低学年は、新聞を使った工作や写真スクラップ作り、文字探しなどの言葉の学習を行い、中学年、高学年は、スクラップした新聞に自分の感想を書いた学習カード、コラム「斜面」の書き写しなどを年間通して行い、掲示した。

3年生の授業では、「子ども新聞」を使い、自分が選んだ記事を構成カードをもとに紹介カードを書くことを通して、友達に分かりやすく伝える文章の書き方を学んだ。この学習によって新聞スクラップの感想の書き方が分かり、家庭学習として定着していった。このような学習を積み重ねていくことで、自分が選んだ新聞記事を丁寧に読み、友達からの質問を予想して辞書で難しい言葉の意味を調べたり、友達と一緒に読んで考えたりする姿が見られ、語彙を増やしたり相手を意識した文章を書いたりすることができるようになった。

(2) N I E 指定校2年次 ～新聞を教材化した授業づくり～

指定校2年次を迎えた今年度は、国語を中心として、効果的に新聞の活用を図っていくことにより、本校の課題である「読む力」「伝え合う力」を高めていきたいと考えた。そこで、年度当初に全学年が、どの単元でどのように新聞を位置づけることが新聞の良さを生かした活用につながるのか、(新聞の教材化)を構想し、研究を進めてきた。

2 研究の概要

(1) 実践のねらい

低学年・・・新聞で文字探し、写真探し、新聞を使った遊びを通して、新聞を楽しみながら興味をもつ。

中学年・・・新聞記事のスクラップや感想の交流、新聞作りを通して、新聞に親しみながら読む力、書く力を高める。

高学年・・・新聞記事のスクラップや要約、問題作りを通して、書く力、読む力、伝える力を高める。

特別支援・・・新聞で遊びながら、新聞に興味をもつ。

(2) 各学年の今年度の主な実践

- 1年生…国語「ひらがな探し」「カタカナ探し」 図工「やぶいた形から」 体育「新聞ボール遊び」
- 2年生…国語「カタカナ探し」 図工「新聞となかよし」
- 3年生…国語「新聞スクラップ」
- 4年生…国語「新聞スクラップ」「スクラップ新聞作り」社会「長野見学新聞」「エコツアー新聞」
「県名探し」「長野県の地名探し」 図工「新聞紙遊園地」
- 5年生…国語「新聞スクラップ」「新聞を読もう」「見出しを使った俳句作り」社会「臨海学習新聞」
- 6年生…国語「新聞スクラップ」「説得力のある意見文を書こう」「未来がよりよくあるために」
「斜面の書き写し」「新聞に記事をテーマにしたスピーチ」
- 知 障…新聞で遊びながら新聞の良さ、楽しさを知る。
・新聞遊び(チャンバラ)」
- 情 障…新聞で遊びながら新聞の良さ、楽しさを知る。
・「新聞スクラップ」

(3) 実践授業

① 2年生 単元名「かたかな探しをしよう」(国語) 10月

教科書で片仮名のグループ分けを学習した子ども達に、学習問題 **かたかなにもっと慣れよう** 学習課題 **新聞記事からさがしたかたかなをなかまわけしよう**を設定し、子ども新聞の記事から、片仮名を探して短冊に書き出し、3～4人グループで相談しながら、分類することを通して、片仮名には①動物の鳴き声②色々な物の音③外国から来た言葉④外国の人や国の名前などに分けられることを学んだ。

【成果と課題】

- 片仮名を読む力、書く力をつけるために子ども新聞を活用し教材化したことで、意欲的な学習となり、語彙力の向上につながった。
- 「新聞にはカタカナがたくさんあって楽しい」と、楽しみながら新聞興味をもつことができた。授業の後、玄関前の新聞コーナーに置いてある新聞を開いたり、子ども新聞でカタカナを探したりする姿が見られた。
- 紙面が大きく、カタカナを探すことに時間がかかったり、探してほしい「動物の鳴き声」「いろいろなものの音」など教師が探してほしい言葉に目が行かなかったりした。児童が追究しやすい紙面の大きさの新聞を準備したり、本時のねらいが達成できるような紙面を与えたりする工夫が必要であった。



② 5年生 単元名「和語・外来語を分かりやすくして伝えよう」(国語) 11月

1 単元名 「和語・漢語・外来語を分かりやすくして伝えよう」

2 単元設定の理由

本単元は、今まであまり意識しなかった「和語・漢語・外来語」に関心をもつことで、「和語・漢語・外来語」それぞれの意味や語感の違いを知り、場に応じた適切な言葉を使うことが期待できる。また、「和語・漢語・外来語」のそれぞれの特徴を考えながら、分かりやすい文章に直すことで、言葉の意味や使い方を知り、言語の獲得も期待できる。

そこで、本単元では、普段利用している身近な新聞を使って、「和語・漢語・外来語」を探したり、兄弟学級の2年生に新聞記事を分かりやすく伝えるための文章を考えたりする場面を設定することができる。以上のことから、和語・漢語・外来語による意味や語感の違いを知り、場に応じた適切な言葉を用いて、分かりやすい文章を考える力が育っていくと考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) 新聞の言葉など身の回りの和語・漢語・外来語に関心を持つことができる。[関心・意欲・態度]
- (2) 和語・漢語・外来語の使い分けを確かめながら、読んだり書いたりできる。[言語(1)イ(エ)]
- (3) 和語・漢語・外来語の由来やそれぞれの語感について理解することができる。[言語(1)イ(カ)](4)
相手意識をもち、その状況に適した言葉に言い換えることができる。[書く(1)オ]

4 単元の展開(全4時間)

段階	学習活動	指導	評価規準	備考	時
第一次	和語と漢語の違いについて考えよう。(第1時)				
	1 教科書の例文を提示し、受ける感じの違いを話し合い、本時の学習課題を確認する。 2 和語と漢語の違いや由来を確認する。 3 新聞の中から、和語と漢語を見つけ、発表する。	・二つの例文を音読させ、語感の違いを押さえる。 ・感じ方には個人差があるので、児童の言葉を大切にしながら指導する。	・和語と漢語の違いや由来を知る。(表情・発言・ノート) ・新聞から和語と漢語の違いを考えながら見つけている。(学習カード)	例文掲示 共通した新聞記事の学習カード 国語辞典 漢字辞典	1
	和語・漢語と、外来語の違いについて考えよう。(第2時)				
	1 前時の例文を提示し、文中のカタカナについて話し合い、本時の学習課題を確認する。 2 外来語の由来について確認する。 3 新聞の中から、外来語を見つけて発表する。	・日本人が発音しやすいように変形した外来語(カレーライス・スニーカー)や日本で作られた外来語(テレビ・パソコン)、外来語と漢語、和語が混ざった言葉(リズム感・漢字ドリル)があることを押さえる。	・外来語の由来を知る。(表情・発言・ノート・挙手) ・新聞から外来語を見つけている。(学習カード)	例文掲示 共通した新聞記事の学習カード 国語辞典	1

第二次	低学年（1・2年）がわかるように簡単な文章に直そう。（第3時）			1	
	<p>1 例文の新聞記事を読み、本時の学習課題を確認する。</p> <p>2 個々に意味の分からない和語や漢語を調べたり考えたりしながら簡単な文章に直す。</p> <p>3 グループで発表し合い、みんなの考えをまとめながら、簡単な文章に直す。</p> <p>4 グループで直した新聞記事を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年にとっては難しい漢語や和語があることを押さえる。 ・意味の分からない漢語や和語を国語辞典で調べたり考えたりするよう助言する。 ・国語辞典を使うことで分かりにくくなる言葉もあるので、頼りすぎないように助言する。 ・グループの友だちと協力しながら、グループの意見をまとめるように支援する。 ・発表の時、分かりやすい文章になっていたかを視点に聞くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉や文章に直している。（学習カード） ・分かりやすい文章に直している。（話し合い・学習カード） 		<p>例文掲示</p> <p>共通した新聞記事の学習カード</p> <p>国語辞典</p> <p>書画カメラ</p>
2年生が分かるような新聞記事にしよう。（第4時：本時）					
	<p>1 例文の新聞記事を読み、2年生に分かりやすい文章なのか話し合い、本時の学習課題を確認し、追及の見通しを持つ。</p> <p>2 個々に分からない漢語や和語を簡単な言葉に直す。</p> <p>3 グループで発表し合い、2年生にとって分かりやすい文章になっているか話し合う。</p> <p>4 グループで直した新聞記事を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の中には難しい漢語や和語があることを押さえる。 ・2年生が分からない言葉を記述する。 ・グループごとに分担された新聞記事をまずは個々に調べるように話す。 ・グループの友だちと協力しながら、分かりやすい文章になっているかを考えながら話し合うように支援する。 ・発表の時、分かりやすい文章になっていたかを視点に聞くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な言葉や文章に直している。（学習カード） ・分かりやすい文章に直している。（話し合い・学習カード） 	<p>例文掲示</p> <p>グループごと分担された新聞記事の学習カード</p> <p>国語辞典</p>	1

5 本時案

(1) 主眼

低学年に言葉を伝えるためには意味の分からない漢語や和語を簡単な言葉に直すと良いことに気がついた子どもたちが、兄弟学級の2年生が意味が分からず困っている新聞記事を読めるようにする場面で、記事に書かれている意味の分からない漢語や和語を調べたりグループで話し合ったりしながら、分かりやすい文章に直すことができる。

(2) 本時の位置(4時間扱い中第4時)

前時:共通した新聞記事を簡単な文章に直した。

(3) 指導上の留意点

- ・個人追求が難しい児童のためにグループでの追求場面を設定し、友から学ぶ場面を設定する。
- ・国語辞典を使うことでわかりにくくなる言葉や出ていない言葉があるので、国語辞典に頼りすぎないように助言する。

(4) 評価規準

2年生に伝えることを意識して、分かりやすい文章に直している。

○意味の分からない漢語や和語を直すことができない子ども

支援しながら、まずは1つ言葉を選び、国語辞典で意味を調べ、当てはまっていると思う言葉の意味を考えるように助言する。

(5) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	・指導 ※評価規準	時間
	1 2年生が困っている新聞記事を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・2年生が困っている新聞記事の拡大コピーを掲示する。 ・学習問題を板書し、新聞記事を読む。 ・新聞記事を読んで、「どうすればいいのか?」を問う。 ・意見を板書する。 ・事前に2年生から聞いておいた分からない漢語や和語を伝える。 ・本時の学習課題を板書する。 ・追究の見通しを示す。 	8
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習問題 2年生が分かるような新聞記事にしよう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習課題 意味の分からない漢語や和語を簡単な文章に直そう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生では、まだ習っていない漢語があるからだ。 ・漢語を和語に直せば、わかりやすい文章になりそうだ。 ・ふりがなをつけよう。 ・言葉の意味を調べよう。 ・「飼育」「対面」という言葉が分からなそうだ。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ① 1人で考える ② グループで発表し合う ③ グループで考えをまとめる ④ グループの考えを発表する </div>	
展開	2 グループに分担された新聞記事をまずは1人で、意味の分からない漢語や和	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を使って分からない漢語や和語を調べる。 ・国語辞典で調べても分からない言葉は自分の言葉で簡単な言葉に直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事をグループごとに分担し、個人追究する。 ・調べたり考えたりしても分からない和語や漢語は飛ばしてよいことを伝える。 	

	<p>語を簡単な言葉に直し、文章にする。</p> <p>3 グループで発表し合い、みんなの考えをまとめながら、わかりやすい文章に直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典で調べたが、わかりやすい文章にならない。 ・直した文章を読みながら発表し合う。 ・分かりやすいと思った友だちの文章をもとに文章を直す。 ・グループで直した文章を清書する。 ・声に出して読みながら確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を使うことで分かりにくくなる言葉もあるので、頼りすぎないように助言する。 ・国語辞典で調べても分からない言葉は自分の言葉で簡単な言葉に直すことを助言する。 ・直すことができたグループは声に出して読んでみることをすすめる。 ※意味の分からない漢語や和語を分かりやすい文章に直している。 <p>(学習カード・話し合い)</p>	30
終末	4 直した新聞記事を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすかったよ。 ・まだ〇〇の言葉の意味が分からない。 ・2年生喜んでくれるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書画カメラで直した文章を提示し、読む。 ・分かりやすくなった新聞記事を拍手で称賛する。 	7

【成果と課題】

- 5年生の教科書単元「和語・漢語・外来語」と全校研究テーマ「伝え合う力をつける」を合わせ、新聞記事の教材化を大事にした授業を構想したことで、つける力が明確になった。
- 「2年生が分かる記事にしよう」というめあてをもたせたことで、相手意識が明確になり、意欲的に意味を調べたり相談し合ったりすることができた。
- 本校の4年生と飯田市和田小の交流の記事が子ども新聞の学習シートに掲載され、それを教材化したことで、辞書の意味を超えた行間に存在する意味を考え合うことができた。「飼育」を「大事に育てる」としたり、「明かした」を辞書から選んだ言葉の中から「話した」にしたりした。
- 3～4人のグループで話し合うことで、友達同士の関わりがもて、自分の考えを分かりやすく伝えたり友の考えを分かろうとしたりする力につながる。

21 小学生 2017年(平成29年)11月11日 土曜日 信濃 毎週こども

5 ページ

学習シート

新聞は石下にあるよ

記事

11月3日付新聞刊読用アイドより

ウズラが結ぶ縁 交流
飯田・和田小2年 伊那・西春近南小4年

飯田市和田小学校2年生5人と伊那市西春近南小学校4年生23人が2日、和田小で交流会を開いた。両校の児童は今年、ウズラの飼育を巡ってつながりができ、これまで手紙でやりとりをしていたが、この日初めて顔見合いに感謝の気持ちを伝え合った。

5月、和田小2年生が飼育していたウズラが動物に襲われたのか姿を消した。ちょうど同小から借りたふ化卵でふ化を試みていた西春近南小に、和田小で飼育していたウズラを持ち込み、ふ化に成功。そのひなは死んでしまったが、両校の間に交流が芽生えた。

この日は、こうした経緯をまとめた絵本を作った和田小

西春近南小の児童を前に、独自のウズラの種類を飼育する和田小2年生の5人(左側)

2年生の保護者、酒井正也さん(48)も参加。西春近南小4年生全員を1組に配ったページには2日半かかったという。「皆さんの写真を穴が開くほどじっくりと見た」と製作経緯を明かした。

和田小2年生は絵本の続きとして、現在飼育しているウズラの子供を紹介する紙芝居

前を披露し、西春近南小4年生は歌を歌うなどした。和田小の編成児童(7)はウズラの絵が描かれたストラップをもらい「なはんに付けよう」と喜んでいった。西春近南小の4年生は現在、2羽を育てている。小田切希冬君(9)は「僕たちもしっかりとお世話したい」と話した。

問題

飯田市和田小学校2年生と伊那市西春近南小学校4年生が、交流会を開きました。記事を読んでみましょう。

①両校は、何を巡ってつながりができましたか。これまで、どのようなやりとりをしてきましたか。

②両校の交流はどのようにして芽生えたのか。()に言葉を書きましょう。

③和田小2年生の保護者、酒井正也さんは、何を作りしましたか。

5月、和田小2年生が()が動物に襲われたのか姿を消した。ちょうど同小から借りた()で

ふ化を試みていた西春近南小に、和田小で()を持ち込み、()したことから交流が芽生えた。

④初めて対面した両校の児童は、交流会でそれぞれ何をしましたか。



③ 1年生 単元名「かたかなを見つけよう」(国語) 2月

間違えやすい「シ」「ツ」「ソ」「ン」のつく言葉や長音のつく片仮名を練習した後、絵本やチラシから片仮名を探し、ワークシートに書き、伝え合う学習をした後、拗音、促音のつく片仮名を子ども新聞から探し、ワークシートに書き、発表し合った。

【成果と課題】

○1年生であっても、ねらいを明確にすることにより新聞を活用した授業を創ることができる。

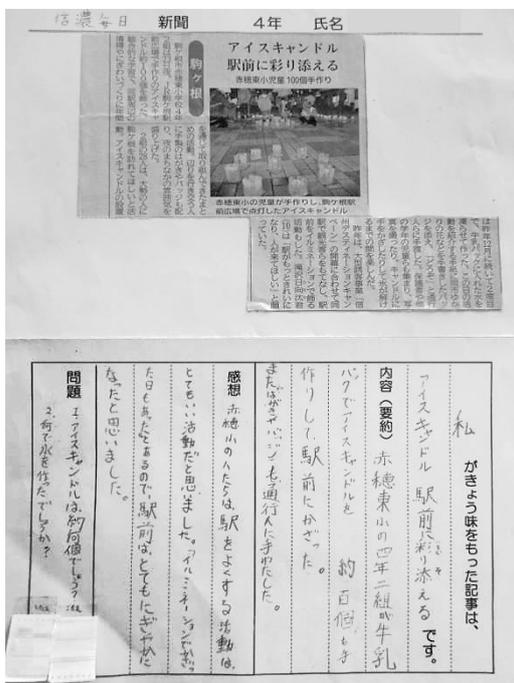
○1年生が見やすいようにできるだけ大きい文字が書かれた子ども新聞の記事を1人に1面分ずつ配布し、探すカタカナを小さな「ヤ」「ユ」「ヨ」「ツ」に絞ったことで、児童は、集中してそ

の文字を探し、全体の間では、自分が見つけた文字を積極的に発表する姿が見られた。(「ピョンチャン」「ジャンプ」「オリンピック」「フィギュアスケート」「サッカー」など)



(4) 日常的な取り組み

中・高学年では、新聞スクラップを週末の家庭学習に位置づけ、継続的に取り組んできた。学年の実態や学習に応じてスクラップした記事のコメントの書き方なども学習してきた。新聞スクラップの学習カードは、4年生では、見出し、興味をもった部分の書き抜き、感想を記入するものから、国語で要点をまとめる学習をした後は、記事の要点を書く学習カードに変更した。5年生では、見出し、感想と記事に関する問題作りをするようにした。6年生では、記事の100字要約、感想を記入できるようにした。



【成果と課題】

○提供していただいた新聞は、高学年の廊下に並べ、自由に閲覧できるようにしたことで、文字を読むことに抵抗のあった児童も、新聞を開いてみたり、見出しを比べたりする様子が見られた。

- 4年生では、参観日に出前講座で長野見学新聞作りを教えていただいたことで、夏休みの自由課題として子ども新聞作りに取り組んだ児童が多く、子ども新聞コンクールで受賞した児童も数名いた。また、授業でスクラップ新聞作りに取り組み、コンクールで受賞した児童も数名いて、関心が高まった。
- 2年間通して、新聞スクラップに取り組んだことにより、読む力が高まったことは、学力テストなどの結果からも見えてきた。また、児童からは視野が広がった、新聞を読むことが楽しくなったなどの感想が聞かれた。新聞スクラップは、子どもの知的好奇心を刺激したり、自分以外の人の見方、考え方に興味をもつことにつながった。さらに、スクラップし記事で友達と交流する姿も見られた。(工作…カーリング遊び 型遊びなど)

3 研究のまとめ

- ① この2年間、身近に新聞があり、授業にも積極的に活用してきたことにより、新聞を読む児童が増え、社会の出来事に興味をもって新聞を読んだり、友達と考え合ったりすることができた。このことが読む力、書く力、伝え合う力を高めることにつながってきたように思われる。
- ② 今年度の実践を年間通したカリキュラムとして位置づけていくことで、今後の継続的な取り組みが期待される。